

井野口祐介選手インタビュー 「Finding My Identity / 進化の先に見えるもの」

Q.アメリカでの2度目のシーズンを終えてどうでしたか？

A. 去年は初めてのシーズンなので、目の前の事を全力でやっていました、今年はその経験で流れが分かっているので、逆算しやすく余裕が出ました。また2年目だからこそ去年との比較の中で気付くことができたことも多かったです。去年のシーズン100試合プレーし、ある程度分かったつもりになっていましたが、それだけではアメリカの野球はまだまだ分からぬ奥の深いものだということに気づけたことには価値があったと思います。



Q.日本とアメリカの違いで気付くことはありますか？

A. 現時点では世界最高峰のリーグである MLB を目指して色々な国から選手が集まるので、それぞれの野球の歴史や文化の違いがプレーに出ます。また、共に生活をし、野球をプレーすることで自分がどんな選手かはもちろん、どんな人間であるかを気付くことができるの自分自身にとって大きなプラスになると思います。

Q.今シーズンまたアメリカに戻ってプレーしようと思ったのはなぜですか？

A.アメリカで僕は外国人選手の立場になり、そのリーグのレベルに対して、同じ実力なら、言語や就労ビザ等で手間の少ないアメリカ国籍の選手を選ぶのが普通なので、圧倒的な実力、キャリアがない限りプレーできるチャンスは限られます。しかしながら、それらがあまりない自分でも幸い、去年のプレー経験によって、またチームからチャンスを与えて頂いたので選びました。

選手としてはもちろん、教える立場のときも、本場での経験は大きいと思います。フランス料理人になりたいならフランスで修行するほうが良いのではないかなど。それが野球ではアメリカだということです。

Q.印象に残っている面白いエピソードはありますか？

A.予想外の事が数多く起きたのでたくさんありますが、強いて言えば5試合くらいヒットのない選手が、振り逃げの場面で走らずに歩いてベンチに戻り、監督がそれを注意したところ、感情的になった選手が”FxxK YOU”を連発し暴れました（笑）でも、その次の試合では監督がその選手を起用し、彼はそこから調子を上げていきました。選手が監督にそんな言葉を使うことなんて日本ではあり得なかつたし、監督がそれでもその選手にまたチャンスを与えて、試合で使うということは少なくとも今までではない事でしたから、その監督さんの起用方法と選手を思う懐の深さには驚かされました。

Q.最後にこれからアメリカでプレーしようと思っている選手たちに一言下さい。また今後の選手としての目標を教えて下さい。

A.海外やアメリカでプレーしたいと思っているなら、是非挑戦して欲しいと思います。今はインターネットなどの発達で海外やアメリカとの距離は20年前よりもかなり縮まっているし、日本とは違う環境の中に身を置いて実際に体感することで、間違いなく良い経験になるので。野球はもちろん、日常生活もそうですが、気づかないうちに凝り固まっている部分などももっと柔軟になれると思います。

今後の選手としての目標ですが、それは当然だけでもメジャーリーグでプレーすることです。選手としてやっている以上はそれ以外にはあり得ませんね！！

